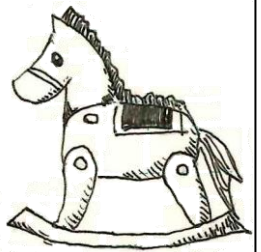


# 木馬



発行  
2022年9月30日  
No.109  
都立成瀬高校  
図書委員会

作家訪問・インタビュー……	1	図書委員のお薦め本……	7
キッズゲルニカ制作日記……	5	図書委員からのお知らせ……	8
古本市・会計報告……	6	四コマ漫画「今日の本田くん」……	8

## インタビューの記録

みなさんこんにちは！

この度、図書委員会・後期委員長を務めることになりました前島恵です。図書室を利用する人たちが楽しく快適に読書生活をおくれるよう精一杯がんばります。また、普段図書室を利用しない人や読書をしない人にも本に興味を持ってもらえたらいいなと思っています。

改めて、分からないことも多々ありますが、よろしく願います。

(図書委員長 2年 M・M)



今回インタビューを受けてくださったのは、はやみねかおる先生です。「ぜひお引き受けしたい」というご返事を聞いたとたんに、喜びのあまり図書室内をスキップした生徒もいました。参加したかったけれどできなかつた方、以下のインタビュー記録と感想をお読みください。

Q1 小説の原稿を書く時のルーティンがありますか？

A 特にない。書こうと思ったら書く。

Q2 よく読む本のジャンルは何ですか？

A 子どもの時はSFと推理小説、中学生時代は推理小説、30代からエッセイも読み始めて、今は推理小説とエッセイを読む。

Q3 ご自身の作品の登場人物の中で一番自分に似ていると思うのは誰ですか？

A 外見的には「夢水シリーズ」の中井麗一、内面的には『都会のトム&ソーヤ』の内藤内人だと思っている。でも、映画で内藤内人役を城桧吏さんがやっていたからクレームが来そうで怖くて言いづらい。

Q4 本を一冊書くのにどれくらい時間をかけますか？

A タイミングによるが、2カ月から1カ月半かけて、締切ギリギリまで（ねばって）書くようにしている。

Q5 『そして五人がいなくなる』のトリックはどのように考えていますか？

A 既存の手法を、上下逆さにしたりして見せ方を変えて応用した。

Q6 「推理小説の条件はHAPPYENDで終わること」とおっしゃっているのはなぜですか？

A 自分自身ハッピーエンドが好きだから。

Q7 「名探偵夢水清志郎事件ノート」シリーズに出てくる岩崎美衣さんは、「日本語の新聞の他にも英語とドイツ語とフランス語の新聞を読んでいる」と書かれています。先生も外国語の新聞を読んでいらっしゃるのですか？

A 日本語しか分からないから日本語の新聞を読む。

Q8 はやみね先生の思う児童文学の魅力は何ですか？

A 子どもの正直なところ。子どもは付度がないので面白くなければ「面白くない」と言う。

Q9 児童文学を書くときは、教育的視点を意識しますか？

A 子どもが読むものを書くという覚悟を持っており、子どもが間違った認識をするような内容は書かない。(例) 溺れている人がいるところに飛び込んで助ける。(注:一緒に溺れる可能性が高いため、周囲に助けを求めた方がよいとされる)

Q10 子どもの頃、学校の中で好きな場所はどこでしたか？

A 教室、運動場の順で好きだった。

Q11 小説を書いていて、自分でも何が書きたいか分からなくなってしまう、という時がもしあれば、対処方法を教えてください。

A 書かない。そんな状況で無理やり書き上げても読者が可哀想だと思い、お蔵入りにしている。

Q12 『ぼくらの先生!』の主人公である「私」というキャラクターは、はやみね先生自身を投影させたのでしょうか？

A 無意識だが、子どものことが分からなかつたという反省を含めて、自身を投影していたと思う。

Q 13 「夢水シリーズ」の、虹北学園文芸部の亜衣ちゃんの次の部長は誰になるのですか？

A パソコンができる文芸部員。亜衣たち一学年下の森川美琴（もりかわみこと）だと思う。

Q 14 「夢水シリーズ」に登場する「京風石狩なべ」、「カレーかまぼこ丼」、「みそ照り焼き鮭」の中からどれか一つを食べられるのなら、どれを食べたいですか？また、その理由は？

A 京風石狩なべである。理由は量が多いし鍋が好きだから。

Q 15 よく漫画や小説では、筆が止まらないことを「手に脳みそがついていく」と表現しますが、そういった経験はありますか？

A 「手に脳みそがついている」という表現を初めて聞いたが面白いと思った。一日に80枚以上書いたのが最高。今はセーブしがちであり、集中していると一日20〜30枚くらいである。体のことを考えながら書いている。

Q 16 『怪盗クイーン』に登場する「クイーン」は周りを振りまわすような行動をたくさんしています。なぜあのようなキャラクターにしたのですか？（怪盗といえば冷静沈着でクールなイメージがあるので少し意外でした）

A クイーン、夢水清志郎、モナミの三人は、ただああいのが頭の中に登場してきただけなのではないか。自分の責任では無い。

Q 17 行き詰ってしまったとき、どうやってリフレッシュしますか？

A そもそも行き詰まらないようにしている。朝起きたら書き始めて、お昼の前後に川沿いを走るなどして、身体を動かしながら次に書くこと考えている。

Q 18 本を書く時に目標にしていたことはありますか？（短期の目標、中期の目標・・・）

A 短期の目標は、今日は何枚書くか、あのシーンまで書くこうなど。中期の目標は、読者にこんなことを感じて欲しい、読者をこんな風に騙したい、など雰囲気のことを考えているが、そんなに縛られず自然な感じを意識している。

Q 19 小説を書くのが嫌になったことはありますか？ ある場合は理由も教えてください。

A 夕方に目がかすむ時や、読みたい漫画や釣りなど、他にやりたいことがある時。それでも、書くのが好きだから書き続けられる。

Q 20 キャラクターの人物像を考える時に意識していることはありますか？

A 美しくないキャラクターは書かない。外見のことではなく、行動や考え方のこと。例えば、スーパーを出るときにカゴを置いたままにするような人は書いていて気持ち悪いので書かない。

Q 21 物語の展開を考えるとときに気をつけていることはありますか？

A 読者が飽きて本を閉じないように。

Q 22 小説家として活動していて、どんなときにやりがいを感じますか？

A 読者が「面白い」と言ってくれた時。

Q 23 『奇譚ルーム』では、登場人物の癖まで書いてありますが、キャラクター創作の時、先生は実際にどこまで考えますか？

A その人物がどれくらい重要かで変わる。『奇譚ルーム』のキャラクターは特に作り込まなくては読者を騙せないと思ったので細かく作った。

Q 24 『奇譚ルーム』で入り組んだ構成の案はどこから出てきたのでしょうか？

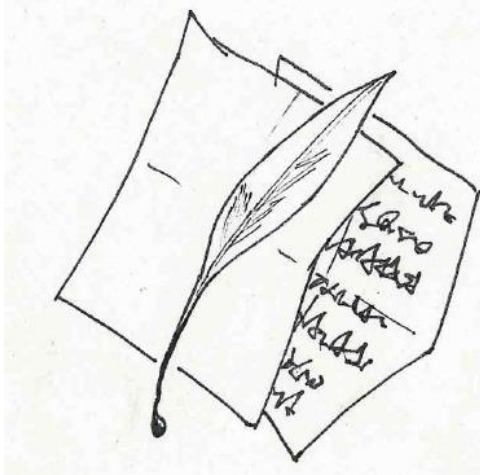
A ずっと切羽詰まりながら考えて捻りだしている。

Q 25 『奇譚ルーム』についてです。この作品を書くにあたって、勉強したところはありますか？

A 横書きの作品が初めてだったので、読者の目にどう見えるか想像することが難しかった。そのため、読者が「どう見えるか」、「どう感じるか」を意識した。

Q 26 アイデアを出すのに特別なことはしていないと書かれていましたが、ご自分には才能があると感じますか？

A 「才能」というより、本をよく読んだ結果、書けるようになった。とにかく、考えることをしている。「才能」という言葉は、その人と同じくらいの事をしてその人と同じ結果が出ない時に、「才能があるね」と言ってもいいと思うている。



Q 27 どの作品にもあとがきに感謝のメッセージが添えられているのが気に入りました。どのような気持ちで書かれていますか？

A 本を書くことは好きでやっていることだから、それを編集してくれる編集者、イラストをつけてくれるイラストレーター、本を見てくれたり、「おもしろい」と言ってくれたりする子どもたちなど、全ての人に感謝している。

Q 28 なにかを創るとき、どこかで見たようなものにならないためにはどうしたらよいでしょうか？

A どこかで見たようなものには絶対ならない。あまり気にせず好きなように書くことが大事。

Q 29 学校や町などの世界観はどうやって作り込んでいきますか？ 地図などを作っていますか？

A 地図や図面等は、トリックに必要な場合は書く。

Q 30 今まで考えた中で、一番反響が大きかったトリックは何ですか？

A (実演しながら)「入るはずのないものがボトルの中に入っていて、赤いテープに注目させてから赤いテープを剥がしたら切れ目など何も無かった」という、実際に中学生たちにミステリーとは何かを説明するときに実演したものの。

Q 31 作家希望の高校生に、「今のうちに〇〇は、やっておくと良い」など、何かメッセージがあればお願いします。

A 後悔しないように、なんでもかんでも体験しておいたほうがいい。例えば今自分が、放課後に高校生がカラオケに行くという場面を書こうとしても、自分の時代にはカラオケはなかったというところもあるが、それを体験したことがないから書けない。

Q 32 はやみね先生はあと8年ほどで作品を集約するという記事を見たので

すが、どのように目処を立てていますか？(何年も先までのことをどのよう見通しているのか気になります！)

A 学校の先生が退職する年齢と同じ65歳で引退する。(正確にはあと7年)それまでに全てのシリーズをまとめ、“これを読んだら、はやみねかおるの全てが分かる”というものをつくりたい。謎や伏線が解明されないまま引退することはしない。

Q 33 『怪盗道化師』の「どんで」という特徴的な地名の由来は？

A 生まれた地元「論出」から。正確には「ろんで」というそうだが、みんな「どんで」と呼んでいる。



ここで、はやみね先生が書庫と仕事をオンラインで案内してください。本棚が所狭しと並んでいる。文庫本、ソフトカバー、ノベルス、執筆用の資料、流行った本、手品の本、漫画など幅広く揃っている。一番多いのはミステリー。廃校になった小学校の図書館にあった本を貰ったりもしている。一番お気に入りの部屋は自分が若い頃から買ってきた漫画が置いてある漫画部屋。執筆部屋には自分の書いた本のコーナー、ハンモックもある。



Q 34 素晴らしい書庫を見せていただき、ありがとうございます。ここにあら本はどれくらい読みましたか？

A 資料的なものは必要箇所のみ。推理小説全集は引退後の楽しみに取ってある。

インタビューの様子



## 感想

◆今回作家訪問を受けて下さったはやみねかおる先生は、私の大好きな作家さんであり、憧れの人もあったので、オンラインとはいえ、インタビューを実施することができ、とてもうれしかったです。実際にははやみね先生とお話してみようと、先生は書かれた作品のように、優しく明るい、素敵な方でした。先生の「どの話もハッピーエンドで終わらせる」という信念はきっとこの人柄故なのだと感じました。

インタビュー中にははやみね先生の書庫を見せていただく機会があったのですが、噂に聞いていた以上の、本、本、本、で圧倒されました。

本編や後書きでも書かれていない設定に対する質問にも答えてくださり、すごく感激しました。質問の答えを知ってから作品を読み返すとさらに面白く……。はやみね先生の作品の尽きない魅力の源を垣間見たような気がします。本当に貴重な体験でした。私達高校生のインタビューの一つ一つ丁寧に答えてくださったはやみねかおる先生、取り次ぎをしてくださった出版社の方々には、改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。ありがとうございました。瓶のトリック、いつか答えを知りたい……。

(1年 N・Y)

◆今回の作家訪問は、はやみねかおる先生が取材を受けてくださり、貴重な経験をさせていただきました。普段は聞くことのできない「作家さんがどのように本を書いているのか」について知ることができました。

今回の質問を通して特に印象に残ったことは二つあります。一つ目は、「今のうちにやっておく」といいことは何か」という質問に「後悔しないように、なんでも体験をしておいたほうがいい」とおっしゃっていたことです。私は挑戦する前にあきらめてしまうことが多いので、この言葉でやってみようと思えました。二つ目は、「ご自分に才能があると思いますか」という質問に「才能というより、本をよく読んで結果書けるようになった」と答えていたことです。本を書けるのは才能があるだけではなく、それ以上に努力が必要なのだと感じました。

質問後、はやみね先生の本棚や仕事をかせていただくことになりました。本棚が部屋一面に広がっていて、その光景は壮観でした。本棚には文庫本や漫画など、様々な種類がそろっていました。本がたくさん並んでいて、とてもわくわくする空間でした。仕事場は先生が書いた作品が並んでおり、本を執筆する際に確認するために置かれているようです。キャラクターの人物像を考えるとときに意識していることなど、興味深いお話をたくさん聞くことができたと嬉しかったです。このような機会を作ってください、本当にあり

がとうございました。

(1年 T・Y)

◆初めて「作家さんと話す」というとても貴重な体験をさせていただきました。今回の作家訪問を通して学んだことや興味深かったことがたくさんありました。その中でも、とくに印象に残ったことについて書きたいと思います。まず、僕が質問した「ご自分に才能があると感じますか」という答えについてです。その答えの中に「才能というより、とにかく考えることをしている」という言葉がありました。この言葉を読み、僕は、なるほど、はやみねかおる先生は「才能なんかより考えることが重要である」と伝えたかったのか、と思いました。

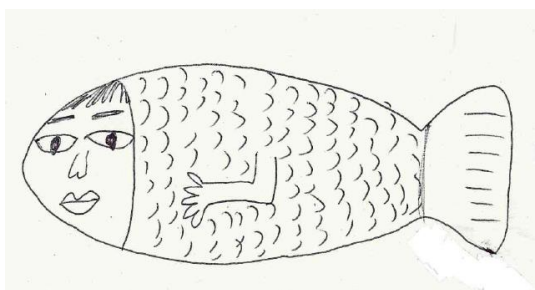
最後に、仕事場についてです。なんと、インタビュアーの流れで、予想外でしたが、オンラインで仕事場を見せていただくことができました。本棚がたくさん並んでおり、見ていて壮観でした。(2年 S・Y)

◆私が本を読むようになったのは中学からなので、これまで児童文学にはあまり触れてきませんでした。ですが、今回作家訪問をするにあたってはやみね先生の児童文学を読み、こんなにユニークな作品があったのか、と驚きました。実際に先生のお話を伺って、はやみね先生の「児童文学を書くこと」に対する思いや考

え方ががひしひしと伝わり、先生が生み出すユニークな作品の痕跡を知れた気がしました。

また、はやみね先生は質問に答えてくださっている際、何度も「子どもが見たとき」という言葉を使っていた。本当に、常に子供たちが飽きないように、楽しめるように作品を書いていらつしやるんだなと思いました。それと同時に、はやみね先生の授業を受けた小学生をうらやましく思い、もっと早く先生の作品に出会いたかったと強く感じました。

今、私ははやみね先生の作品の世界観に浸りたくなっています。次に何を読もう、次はどんな魅力的なキャラクターやトリックが待っているだろう、とわくわくしています。今回の取材を通して、このわくわくとたくさんの方を見を得られて、本当に良かったです。(2年 M・M)



### はやみねかおる先生プロフィール

一九六四年四月十六日、三重県生まれ。三重大学・教育学部数学科を卒業。

学生時代から執筆を始めたが、小説家になる夢を一度は諦め小学校で14年間勤務。教師として働きながら生徒に読み聞かせる作品を執筆し、一九八九年『怪盗道化師(ピエロ)』が「第30回講談社児童文学新人賞」の佳作に入選し作家デビュー。「勇嶺薫」名義の作品もある。

代表作は累計二〇〇万部を突破した『都会(まち)のトム&ソーヤ』シリーズを始め、「名探偵夢水清志郎事件ノート」シリーズ、「怪盗クイーン」シリーズ等々。二〇〇七年には大人のためのミステリー『赤い夢の迷宮』、二〇一八年にはSNSを舞台にしたヤングアダルト向けミステリー『奇譚ルーム』を手掛け、子どもから大人まで幅広いファンを持つ。

日程 令和4年7月15日(金)

午後1時35分〜3時

場所 図書室

参加者 3年 A・A O・A S・A

N・Y

2年 K・Y S・Y S・T

N・K M・M Y・H

1年 K・M T・Y N・Y

Y・A Y・M (計15名)

図書委員会顧問 I・S(司書)

デジタルサポーター T・S

参観者 A出版K氏(オンライン)

## キッズゲルニカ

### 「撃壊之歌」制作日記

図書委員会は3年ぶりの古本市を実施するにあたり、会場の展示企画として、「キッズゲルニカ」に取り組むことにしました。メンバーはPOP班を中心とする参加希望者で、共同制作は初めてです。以後、古本市を担当する「古本チーム」と区別して「ゲルニカチーム」と呼ぶことにしました。

「キッズゲルニカ」とは、ピカソが無差別爆撃を受けたまち、ゲルニカの悲惨な状況を描いて戦争の悲惨さを訴えた「ゲルニカ」にならない、縦三・五×横七・八mの大きなキャンバスに、子どもたちが平和のメッセージを込めて描く国際的なアートプロジェクトです。

図書委員会は、非公式参加ではありませんが、模造紙を貼り合わせてほぼ同じサイズキャンバスを作り、プロジェクトの趣旨に沿った絵を描いて、会場の壁面に飾ることにしました。

#### ◆企画会議

7月初旬、ゲルニカチーム全員が集まって制作する作品の内容を決めました。テーマを「平和」に定めて、一・二年生を中心に多くの意見が挙がり、後で三年生がまとめて平和への祈りのこもったラフを制作しました。

#### ◆完成図（下絵）

夏休み中に三年生がキッズゲルニカの完成図（B4サイズの下絵）を制作しました。これをベースにして、今回の作品を完成させることができました。

#### ◆8月24日（制作1日目）

模造紙を貼り合わせてキャンバスを制作するところから始まりました。キャンバスは模造紙で縦3枚、横7枚の計21枚を使用した大ボリユームなものになりました。模造紙の色は白でなく、ウクライナ国旗をイメージした青と黄色の2色にしました。その後は完成図（下絵）を基に、キャンバスに鉛筆で下書きを拡大して描きました。続いて、「太陽」などの目立つ部分や「山」などの面積の広い部分を水彩絵具で塗ったところで、1日目の作業が終わりました。



#### ◆8月25日（制作2日目）

本格的に彩色作業に着手しました。大まかに色を塗り終わった後は、「空」や「太陽」にグラデーションを施したり「翼の生えた本」の陰影を描いたり、細かな部分の作業を行いました。「空」の仕上げにはスプレー缶を用いました。

また、この日に作品タイトルが「撃壊之歌」に決まりました。タイトルの案出しに苦戦しましたが、最終的にリーダーの案が採用となりました。



#### ◆8月26日（制作3日目）

最終日となる3日目は三年生を中心に「虹」や「太陽」の前にある本などを描き込みや、細かい部分の手直しなどを行いました。こうして企画会議から約一か月の期間を経て、キッズゲルニカ「撃壊之歌」が完成しました。



＜2日目の終わり＞

完成作品



【作品解説】

キッズゲルニカ「撃壊之歌」は、様々な要素を象徴的に取り込んでいます。まず、背景の「青空」と「ひまわり畑」はウクライナの国旗の青・黄の2

色をイメージしています。また、「ひまわり」はウクライナの国花でもあります。次いでやる気持ちの象徴でもあります。次に「翼の生えた本」は表現の自由や平和を願う気持ちを象徴しています。それらが多様性を表す「虹」をくぐって、平和や理想の世界の象徴である「太陽」に向かっていくことで、平和の実現、また、それに向かっていく姿勢を表現しています。



タイトルである「撃壊之歌」は、『十八史略』から借用しました。天下泰平で、人々が平和で安楽な暮らしを楽しんでいることのたとえで、この絵を通して伝えたいことの一つです。

【ゲルニカチーム】  
I・S（3年 チームリーダー）  
Y・S（3年 下 絵・制作指揮）  
K・Y・H、C・S（2年 彩色）  
T・O・M（3年 制作日記）  
S・A（3年 題字）  
S・K、T・A・M、O・A（3年）  
K・Y（2年）  
N・R（1年）



第25回 古本市

3年ぶりの文化祭は、コロナ下、限定公開の形で実施されました。2日間の売上金 一万三千八百円は、例年どおり全額を日本点字図書館に寄付します。古本を提供していただいた方、ご来場いただいた方、様々な形でご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございます。

古本の仕分け、会場設営、当日の進行管理はイベント班が行いました。会場（教室）前方黒板にキッズゲルニカ「撃壊之歌」を貼り、内装はウクライナカラーで統一しました。



【古本チーム】  
Y・S（3年 チームリーダー）  
A・Y（3年 サブリーダー）  
I・R（3年 文化祭会計）  
N・Y（3年 装飾デザイン）  
S・K（2年 窓ガラスアート）  
（イベント班 / 3年 O・Y Y・T  
2年 S・T S・A、1年 I・N  
U・M O・S K・T H・T）

## 図書委員のお薦め本

読書班は、一学期、校内読書会と小川高校との合同読書会に向けて短編を読み、話し合う練習をしました。今回読んだ短篇は、K・マンズフィールドの「園遊会」です。読書会未経験の一、二年生も意見を出そうと頑張っていました。本番が成功するようにこれからも精力的に活動してきます。

(班長 3年 N・Y)

ここからは、読書班メンバーによるおすすめ本です。

### 一度読んでみてほしい本

私が紹介する本は、住野よるさんの『同じ夢を見ていた』です。「幸せとは何か」、学校で出された課題について考えている主人公、奈ノ花は、ある三人の女性との出会いと、クラスメイトの桐生くんと関わることで、この問いの答えを模索していきます。この本をおすすめした理由は、最初から最後にかけて段々と伏線が回収されていき、ここはこういうことだったのかとわかるので読み進めることがさらに楽しくなるからです。また、この作品を通して自分の人生についてや自分にとっての幸せとはどういうものかについて深く考えさせられました。

(1年 T・Y)

### 目に見えない世界の本

私がすすめる本は、『眠れなくなるほど面白い 図解 心理学の話』(渋谷昌三監修)という本です。おすすめする理由は、ふだんの生活で目の見える事はよく気付くが、心のことについてはあまり覚えてないからです。

みなさんは、「心身相関」という言葉を知っていますか。意味は、心で感じる事は身体にも影響があるという事です。逆に、身体から心への影響もあるという事です。例えば、プレゼンテーションの発表の前で緊張して熱くなるということなどです。そういった心と身体の関係について知り、日々の様々な生活で思ったこと、感じたことについて心理学という方法を用いて理解することで、日々の生活を改善できるのでおすすめです。

(1年 S・H)

### 『恋のゴンドラ』

私がこの本を薦める理由として、「生々しさ」があります。私は今まで東野圭吾さんが書いた本を見たことがなく、この作品が初めてだったので「人の感情の生々しさ」を初めて感じました。人間関係がどんなにこわれていく過程がこまかく描写されていて、読み進めているうちに、自然と読み手をなんともいえない複雑な気持ちに陥

らせてくるという興味深い魅力があります。

(1年 H・S)

### 『ころ』

私が紹介する本は、夏目漱石の『ころ』という本です。私はこの本のテーマを罪悪感だと思います。そのため、全体を通して暗い作品となっています。また、夏目漱石の別の作品である『坊っちゃん』とは離れたテーマであるから、この2つを比較することで、夏目漱石の作品の振れ幅を感じる事ができると思います。

(1年 A・T)

### プロットがない本？

#### 『草枕』

この作品は、「智に働けば角が立つ情に棹させば流される」という書き出しで有名な夏目漱石の初期の代表作です。この作品では主人公が芸術に心酔している様子から、夏目漱石の道徳観を知ることができる作品となっています。

そして、特徴としてプロット、すなわち筋がありません。そのため、この作品を楽しむためには、テーマの「非人情」と「憐れ」を感じとりながら読む必要があると思います。また、繰り返し読み込むほど面白さが増す作品です。

(2年 S・Y)



高校生のときに読みたい一冊

僕が紹介する本は、『この夏のこともどうせ忘れる』(深沢 仁著)という本です。この本は、高校三年生になった主人公の塾での勉強や友人との関係について書かれた、青春小説です。主人公と、主人公と同じクラスだけれど、気が合わなかった人との関係の変化が、とてもおもしろいです。夏の良さが存分に味わえるストーリーなので、夏や気温の高い時期に読むと、さらにおもしろい一冊になると思います。

(2年 K・T)

### 本と非日常

突然ですが、あなたは何を求めて本を読みますか？ 私をはじめとして、

多くの人は非日常のワクワク感を本に探しているのではないでしょうか。例えば、魔法のある世界や、複雑怪奇な殺人事件、障害のある恋など・・・どれも私たちの日常とはかけ離れていると言えます。

そんな物語が大好きな私がおすすめする本は、三浦しをんさんの『格闘する者に〇(まる)』です。この本の主人公は日本のどこにでも居るような大学生。しかし、彼女の生き方には憧れずにはいられません。私にとって一番難しいことは魔法や殺人事件では無く、他人を気にしすぎ気ままに生きることです。彼女が気ままに、呑気に、一生懸命に生きる姿は、あなたにも一歩踏み出す勇気を与えてくれるかもしれません。

美しい話 『日の名残り』  
(カズオ・イシグロ著) を読んで

僕達は、過去のことを思い出さずにはいられない。過去には多くの失敗や後悔がひそんでいるから、それを思い出すことは、ひどく僕達を傷付けたりする。その上で、過去と対峙し、それでもなお前を向く大切さをこの本は教えてくれる。

美しい風景の表現、過ち+後悔、涙に焦点を当てながらも、どこか色褪せた淡い記憶を感じる濃厚で爽やかな文章です。気が向いた時に読んでみて下さい。  
(3年 I・R)

## 「今日の本田くん」No.11

原案・38期 I・H / 絵・2年 K・Y



### 図書委員会からのお知らせ

#### ◆「読書週間」迫る!

10月27日～11月9日は、秋の読書週間です。図書委員会は、イベント班・読書班・POP班の総力を結集して盛り上げたいと思います。こんなことをやってほしいというリクエストがありましたら、お近くのの図書員まで♪

#### ◆校内読書会のお知らせ

12月に図書室にて、校内読書会を開催する予定です。課題図書(事前に読んでくる本)や日程などの詳細は後日掲示にてお知らせします。

また、来年3月には小川高校との合同読書会も開催予定です。会場は小川高校、またはオンライン。こちらも詳細が決まりましたらお知らせします。  
(読書班)

#### ◆クリスマスプレゼント抽選会 予告

年末に図書室で、恒例のクリスマスプレゼント抽選会を行います! どうぞお楽しみに。  
(イベント班)

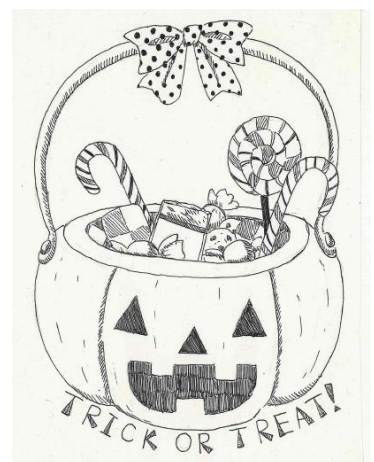
#### 校内ビブリオバトル実施@図書室

9月22日、10月開催予定の「高校生による書評合戦」東京大会に出場する代表生徒一名が選出されました。  
※今回はコロナ事情により図書委員のお手伝いはありませんでした。

### 編集後記

「作家訪問」は、はやみねかおる先生にオンラインでインタビューすることができました。快諾してくださったはやみねかおる先生、A出版社編集部K様に深く感謝いたします。すぐにインタビュー記録を出すはずだったので、3年ぶりに文化祭が行われることになり、図書委員会伝統の「古本市」復活も決まったため、発行を遅らせました。

作家訪問、蔵書点検、文化祭と目まぐるしかった夏が終わり、いよいよ「読書の秋」です。文化祭を境に役員・班長が交替し、新体制になった図書委員会、後期も頑張りましょう!  
(I)



(広報班/3年 A・A I・R  
N・Y 2年 K・Y KJ・H  
KY・H C・S M・M)  
(イラスト/図書委員会 OB・OGの  
作品より)